

氏名	榎 殿 知 穂
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 号
学位授与の日付	平成16年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Increased serum concentrations and surface expression on peripheral white blood cells of decay-accelerating factor (CD55) in patients with active ulcerative colitis (活動期潰瘍性大腸炎患者における血清中膜性補体制御因子 decay-accelerating factor (CD55)の増加と血球表面での発現亢進)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 谷本 光音 教授 小熊 恵二

学位論文内容の要旨

DAFは本来、炎症によって活性化された補体の作用から自己細胞を保護する機能を持つ膜性補体制御因子であり、種々のサイトカインにより血球細胞、消化管粘膜上皮細胞などにおける発現が調整されている。我々は潰瘍性大腸炎(UC)患者血清中および末梢血球細胞上のDAF量を測定し、UCの病勢との関連につき検討した。対象はUC患者60例、血清中DAF濃度をsandwich ELISAで測定し、血球表面のDAF発現は抗DAF抗体によるflow cytometryで解析した。血清中DAF濃度は、活動期UC患者では寛解期UC患者と健常者に比べて有意に高値を示した。血球表面におけるDAF発現は、活動期患者では、好中球、単球、CD19Bリンパ球、CD4 Tリンパ球、CD8 Tリンパ球で、寛解期患者に比べて有意に亢進していた。さらに治療によりUCが寛解すると血清中および血球上のDAF量はともに低下した。これらの結果からUC患者では、血清中DAF濃度の病勢に応じた変動が認められた。活動期UCにおける血清DAF濃度の増加は末梢白血球に由来する可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、潰瘍性大腸炎(UC)患者血清中および末梢血球細胞上のDAF量を測定し、UCの病勢との関連につき検討したものである。対象はUC患者60例、血清中DAF濃度をsandwich ELISAで測定し、血球表面のDAF発現は抗DAF抗体によるflow cytometryで解析した。血清中DAF濃度は、活動期UC患者では寛解期患者に比べて有意に高値を示した。血球表面におけるDAF発現は、活動期患者では、好中球、単球、リンパ球で、寛解期患者に比べて有意に亢進し、活動期UCにおける血清DAF濃度の増加は末梢白血球に由来する可能性が示唆された。さらに治療によりUCが寛解すると血清中および血球上のDAF量はともに低下した。これらの結果からUC患者に於ける血清中DAF濃度の測定は臨床的意義を有するものと期待される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。